

**「持続可能な多世代共創社会のデザイン」
研究開発領域
提案書作成の留意点**

平成27年度 募集説明会



科学技術振興機構

全体的な留意事項

- 領域目標の達成に資する提案を求めています。
- 特に、募集要項の以下をよく読んでから作成してください。
 - ✓ [募集・選考にあたって本領域が求めるもの](#) (p.6-7)
 - ✓ [研究開発領域の目標](#) (p.9)
 - ✓ [選考にあたっての主な評価項目](#) (p.13)
 - ✓ [提案書の記載要領](#) (p.48-78)
- 募集するのは、研究開発[プロジェクト](#)及びプロジェクト[企画調査](#)です。
- 応募は、[e-Rad](#)により行っていただきます (p.39-47)。

選考スケジュール

募集開始	<u>4月28日(火)</u>
募集説明会	<u>5月11日(月)京都、5月15日(金)東京</u>
【一次選考】提案書受付期限	<u>6月2日(火)正午 <厳守></u>
【一次選考】結果の通知	7月初旬(予定)
【二次選考】提案書受付期限	7月中旬(予定)
【二次選考】書類選考の結果通知	面接選考会の1週間前までに連絡(予定)
【二次選考】面接選考会	<u>9月10日(木)、11日(金)</u>
面談(採択条件の説明)	<u>9月16日(水)、17日(木)</u>
選考結果の通知・発表	9月中(予定)
研究開発の開始	10月1日

- 下線を付した日付は確定していますが、他の日程は今後変更となることもあります。

主な評価項目 (p.13)

主な評価項目

- ① 領域のコンセプトを踏まえている
- ② 研究開発の成果と社会実装への展開が期待できる
- ③ 提案を育む価値・可能性がある

以上を判断するために、以下について検討します。

- a. 解決すべき都市・地域の具体的な問題とその原因、ボトルネックが適切に提示されている
- b. 持続可能な都市・地域のビジョンが適切である
- c. ビジョンを実現するためのプロセスと体制が妥当である
プロジェクト企画調査については、調査の中で具体化すべき点が明確になっている
- d. どのような多世代共創で何をco-creationすることを目指すのかが明確である
- e. 達成目標が都市・地域への効果(アウトカム)も含めて適切に設定されている
- f. 目標達成に向けて妥当な研究開発計画となっている
プロジェクト企画調査については、妥当な調査計画となっている
- g. 実践者と研究者の適切なパートナーシップが期待できる
企画調査については、調査を通して、実践者と研究者の適切なパートナーシップの構築が期待できる
- h. 領域との対話やプロジェクト・マネジメントが期待できる
企画調査については、領域との対話や調査成果をプロジェクト提案にまとめていくマネジメントが期待できる

【一次選考用】表紙 (p.49)

- 表紙(p.49)はA4・1ページです。
- 「課題名」は大切です。
 - ✓ 何をめざす提案なのかを25字以内で端的に表現してください。
 - ✓ 副題はつけないでください。
- 一次選考用の提案書は、プロジェクト、企画調査、共通です。
 - ✓ 「提案枠」でいずれかに○を付記してください。
- 領域主催ワークショップ参加者は、「参加状況」の欄に○を付記してください。
 - ✓ 平成27年3月15日(宮城県石巻市)
 - ✓ 平成27年5月10日(東京都千代田区)

※今後の参考とさせていただきます。
- 「総研究開発費」(直接経費)では、プロジェクトの場合は3年間
の総額を記載してください。

【一次選考用】提案の概要 (p.50)

- 全体でA4・2枚以内で簡潔に記載してください。
 - ✓ 項目1-3は必須です。
 - ✓ 項目4は任意です。
- 「対象とする地域」では、具体的な地域名を記載するとともに、分類を選択してください。

対象地域	○○県○○市、○○県○○市○○地区		
	()大都市近郊	()地方中小都市	()東日本大震災被災地
	(○)都市-地方連携	()その他	

- 「キーワード」は、独自に設定してください。
 - ✓ 単語にしてください。

【一次選考用】提案の概要 (p.50)

1. 解決すべき都市・地域の具体的な問題とその原因、ボトルネック

- 本提案が対象とする、都市・地域が抱える問題
- 既存の社会システムや取り組みでは解決できない具体的な原因
やボトルネック

(参考:p.54)

- ✓ これまでの類似の取り組みや政策・施策、研究等では、なぜ問題解決できないのか

2. 本提案における持続可能な都市・地域のビジョン

- ビジョン:最終的に実現を目指す都市・地域の姿
- 何をどうしていけば都市・地域の持続可能性に結びつくと考えているのか

【一次選考用】提案の概要 (p.50)

3. ビジョンを実現するためのプロセスと体制、そこにおける多世代共創

- プロセス: 都市・地域が、1で記載した問題を抱える現状から、2で記載したビジョンに変容していくまでの想定する道筋
 - ✓ 3年間のプロジェクトでどこまで達成しようとしているのか
 - ✓ アプローチや体制
 - ✓ 「どのような成果」が「誰(人・組織等)」に活用され、「どのような行動変容」が起こることで地域が変容していくのか
- 本提案における多世代共創とは:
 - ✓ どのような多世代共創で(世代の捉え方と共創の方法)
 - ✓ 何をco-creationすることを促そうとしているのか(共創によって生み出すもの)

【一次選考用】 提案の概要 (p.50)

3. ビジョンを実現するためのプロセスと体制、そこにおける多世代共創

- 企画調査の場合：
 - ✓ 可能な限り記載
 - ✓ プロジェクト提案に向けて現時点で不足しており、本企画調査の中で具体化・明確化しようとしている点は何か
- 体制：
 - ✓ どのような立場・専門性の方が
 - ✓ どのような形で参加(あるいは協力)するのか
- 実施者：
 - 研究開発を主体的に実施するメンバー
 - 研究者でなくても構わない
- 協力者
 - 都市・地域等で社会実験を受け入れる立場の人や、研究開発に助言を行う人など

【一次選考用】 提案の概要 (p.50)

4. アピールポイント【任意】

- 本提案の新規性(既存の取り組みや類似の研究との違い)
- 問題に取り組む実践家と研究者とが共に提案を育てている場合
- 成果がプロジェクト終了後も他地域で実装される可能性
- 国際的な展開の可能性 など

※ 空欄でも構いません。項目名は残したまま、空欄としてください。

二次選考について

- 一次選考通過となった提案については、二次選考用の提案書（フルペーパー）を作成いただきます（p.51-78）。
 - ✓ 構想の詳細（様式3）
 - 一次選考用提案書で記載した内容の詳細
 - 短期的アウトカムを含めた目標設定
 - 実施内容、マイルストーン
 - 社会実装に向けた成果の一般化・体系化
 - 課題と対応
 - 準備状況
 - 社会実装に関する構想、波及効果
 - 人権の保護および法令遵守への対応
 - ✓ 実施体制（様式2、4、5、6）
 - グループ構成、有機的な連携
 - 協働体制
 - プロジェクト・マネジメント体制

二次選考について

- ✓ 研究開発費／企画調査費の見込み(様式7)
 - 企画調査で対象としない費目:
 - 設備備品
 - 常勤雇用の人件費

- ✓ 他制度での助成等の有無(様式8)
 - 研究代表者 及び グループリーダー

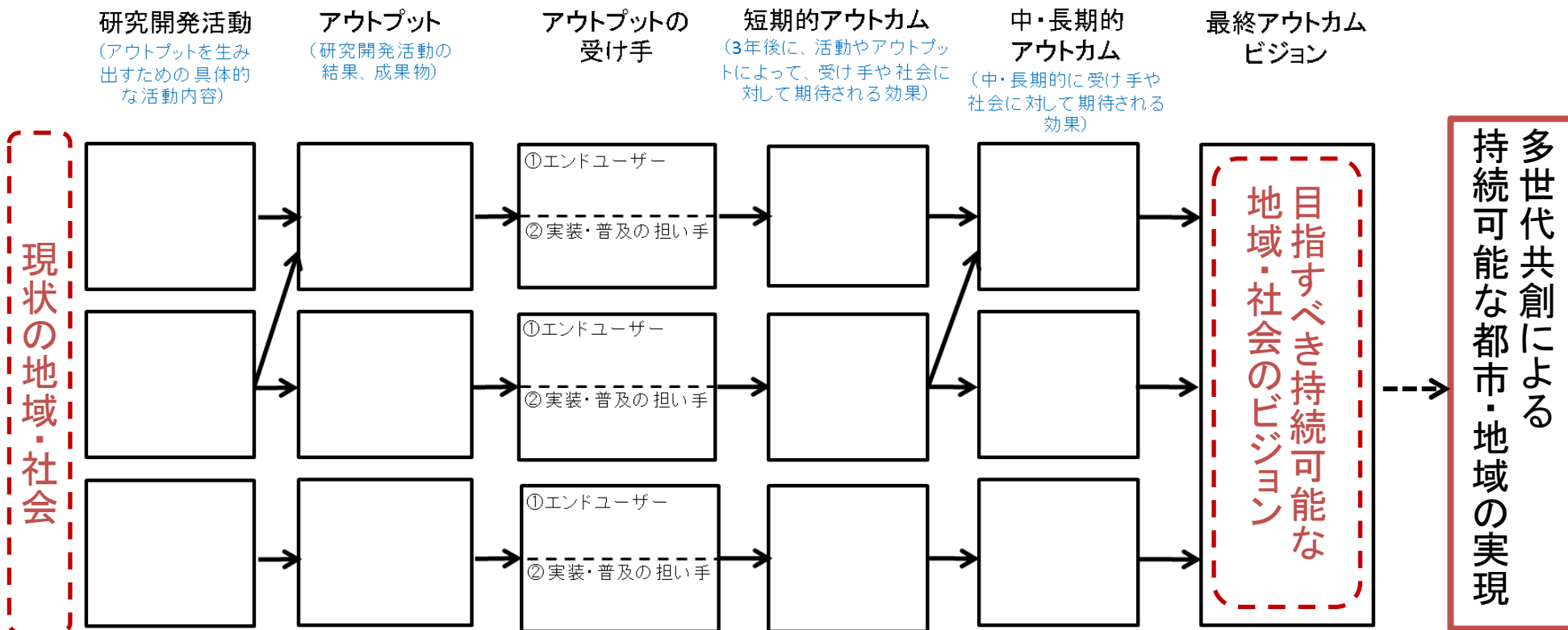
- ✓ 特記事項(様式9)
 - 海外の機関に所属する方が、海外の機関を拠点に実施者として参加される場合 → その理由を記載
 - 研究代表者が、現在、国内の特定の法人に所属しておらず、採択された場合に国内の法人に所属する予定がある場合 → 事情を記載

二次選考について

- 本提案の成果の受け手や社会実装の担い手となりうる主要なステークホルダー（自治体、学校、自治会、市民団体、企業等）からのコメントやアピールがある場合：
 - ✓ 期待や協力体制等について、後日、WEBサイトに掲載予定の指定の様式にて提出可
- 二次選考用の提案書等は、提案締切り後にRISTEXのWEBサイトに掲載いたします。

参考

現状課題:



目指すべき地域・社会への移行プロセス
(成果の社会実装・課題解決に向けたストーリー)

最後に

応募締切

6月2日(火)正午 <厳守>

(e-Radでの受付期限)

たくさんの応募をお待ちしています。